

廃棄ごみ活用方法探る

コンソーシアム
新プロジェクト

廃棄されるごみを活用

し、環境に優しい循環システム構築を目指す「ごみまるごと循環コンソーシアム」運営委員会の会合がこのほど、高松市のサンポートホール高松であった。本年度は従来のバイオエタノールなどの製造に加え、バイオガス発電や学校での環境教育などの試みを一体化した新たな循環プロジェクトに取り組むことを申し

合わせた。

新プロジェクト名は、ビジネスと環境教育を融合させた「ごみ丸。さめき油電化プロジェクト」。昨年度よりも設備を増強した市内の産業機械メーカーのプラントを使って、燃料(油)としてバイオエタノールや液肥を製造するほか、エタノール製造後の残りかすと食品廃棄物の発酵によって出たメタンガスで発電し、

発電する。

また、ごみ店や商店街、学校などに働きかけて生産物の活用を呼び掛けるとともに、プロジェクトを広くアピールして高付加価値化を目指す。

会合には、環境NPOや行政、製麺業者らでつくる同委員会のメンバー約15人が出席。

事務局から提案された新プロジェクトに対し、「取り組みを差別化してアピールするためにも、オリ

ジナルマークなどを作ってみては」などの意見が出た。